

分科会の記録 <第5B分科会 教職員の専門性に関する課題>

【提言者1】高知県 香美市立大宮小学校 中島 佳史

【提言主題】教員の指導力・授業力を高める仕組みを整えるための教頭の関わり
— 国際バカロレア教育認定校を目指した取組を通して —

【協議の柱】

教員の指導力・授業力を高める効果的な仕組みづくりに関わる副校長・教頭の役割

【グループ協議 報告】

- ・研修機会を増やすことは理想だが、現状では難しいため、状況に応じた工夫を講じていく必要がある。
- ・研修の方法を工夫する。(週時程の見直し、ICTの活用、コンパクトな打ち合わせ、ミニ研修、など)
- ・職員一人一人に主任の意識を高めるようはたらきかけることを心掛ける。
- ・研修のあり方、目標の共有、過多の課題の中で何をやるかを明確にさせていく。そのための具体的な方策を提示したり、連携しやすい環境を整えたりする。
- ・初任者研修においてチームを構成し、メンティー、メンターの相互の成長を図る。(チームプロデュース)
- ・メンターとしては、ベテラン教員の目標が高すぎる場合もあり、2、3年目の若手教員もミドルメンターとして存在感を示すことがある。
- ・若手教員の動画記録を保存し、ベテラン教員や管理職が確認、事後指導等できるようにする。
- ・GIGAスクール、ICT活用の研修では、若手の強みを生かしていく。
- ・IB認定校では、コーディネーター、サブコーディネーター、全体を把握する教頭の負担増とならないような仕組みが必要である。
- ・職員室の机の配置に人事配置構想の意図を反映させ、若手とベテランの協働を生むようにする。
- ・働き方改革と人材育成のバランスをとるための工夫が必要である。
- ・校務分掌事務、各種業務における負担軽減を進める。(通知表の見直し、ペーパーレス化の推進、など)
- ・業務を協働で行うことにより、人材育成の推進と負担感の軽減を図るようにする。(OJT)
- ・支援を要する児童生徒、問題行動等の対応では、教員に主体性を持たせるような教頭の関わりにする。
- ・業務の遂行に当たり、教頭が決めず、決めない、聞くに徹し本人にきめさせPDCAをさせる。
- ・安全管理、児童生徒の状況把握から学級学年担当と関わる課題覚知のために校舎を巡回する。
- ・研修や協働の話し合いの時間確保の仕組みをつくり、業務の優先度により見直しを推し進める。

【指導助言：全公教顧問会】(北海道札幌市立北栄中学校長 笹川 恒春 氏)

教頭としては、職員が「よって、たかって、皆で関わる」ことを目指して取り組んだ。大宮小では、外国語、算数、食育などの発表があったが、学びに向かう力や学校の伝統を感じた。IB認定校の取り組みの中には、多くのヒントが見られる。実践に取り組みやすい仕組みを整えることは重要であるが、そこに教頭が関わる。学校は新しい取り組みに踏み出しづらい特性があるため、校時表により、「見える化」を図ることは効果的である。また、コンパクトな打ち合わせは、若手の軽いフットワークを生かし、回数は増えても総時間数が減るといったメリットがある。人事異動による4月転入者へのIB教育についての伝達、理解促進が鍵となる。

【指導助言：佐賀県】(佐賀県西部教育事務所北部支所長 礎 靖久 氏)

これからの学校教育、児童生徒に対応する教員は、実に様々な分野の専門性を問われる。しかし、具体的に「これ」と示すことは難しく、教員個々が資質・能力を高められるような育成のシステムを教頭が整えていく。教員採用試験の倍率が下がり、人材の質の変化が明確になっているが、改善していくには働き方改革を推進し、提言にあったような週時程にもメスを入れるなど、学校運営の工夫が急務である。提言では、研修会を増やすことを主軸に、そのための業務スリム化を具体的に進めている点が素晴らしかった。時間外勤務の縮減のためにはタイムマネジメントを推奨し、優先度の低いものを排することも重要である。